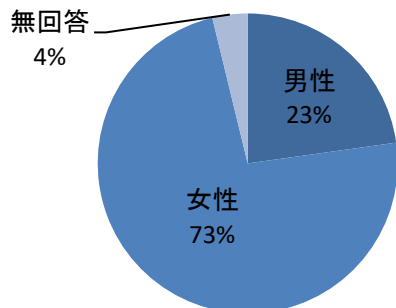


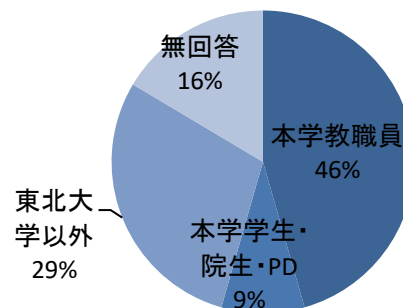
## 第17回東北大学男女共同参画シンポジウム アンケート集計結果

上記シンポジウムに参加された方々に、今後のシンポジウム開催の参考とするため、内容等に関してアンケートを行った。参加者181名のうち、79名の方から回答をいただいた。

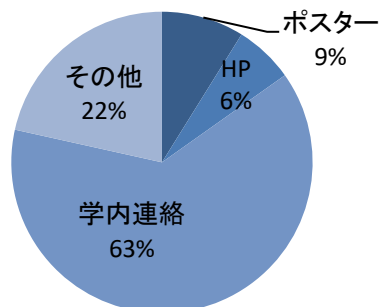
### Q1 あなたの性別をお教えてください。



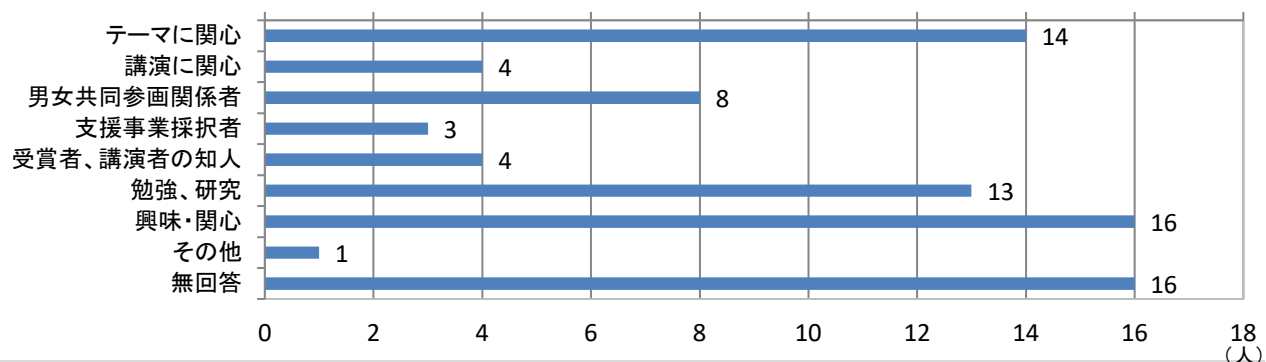
### Q2 ご職業(もしよろしければ、会社名、職名も)をお教えてください



### Q3 このシンポジウムのことをどこでお知りになりましたか。



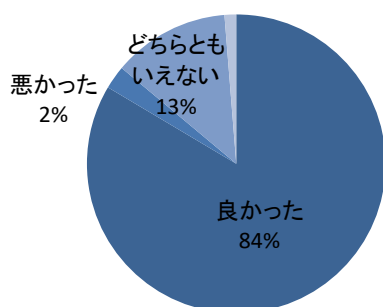
### Q4 このシンポジウムに参加された動機は何ですか。



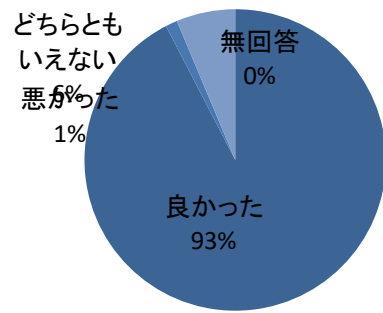
#### <回答>

男女共同参画、gender equality /inequalityに興味があったから。また、ポストコロナにおいて「人を育てる」という視点でどのようなことが変わる可能性があるのか、「男女共同参画」の視点では、このコロナ禍での教育がどのように影響するのか、興味があった。/日本のアカデミアや政治は女性参加という観点で海外に遥かに遅れていると感じざるを得ない場面が多く、男女共同参画に実際取り組む方の意見・経験について知りたかったです。/コロナ禍での学生・研修医教育で苦慮することが多く、今後の参考になることがあればと思い参加させて頂きました。/ダイバーシティとポストコロナとの取り合わせのテーマが興味深かったから/昨年も参加し、とても興味深かったため。/トップランナーである東北大学の取り組みを知りたかった。/男女共同参画に関して、研究科によって認識が大変異なるため。同じ女性研究者として成果をあげても、研究科によっては認められたり認められなかったりする現状を変える必要があると感じており、ぜひ他大学の現状を知りたかったため。

### Q5 開催時期について



## Q6 オンライン開催について

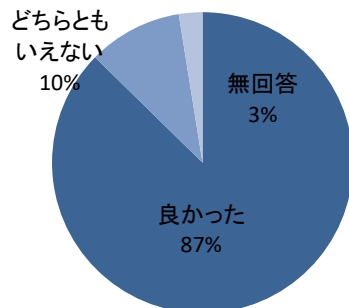


## Q7 Q6について具体的にお聞かせください

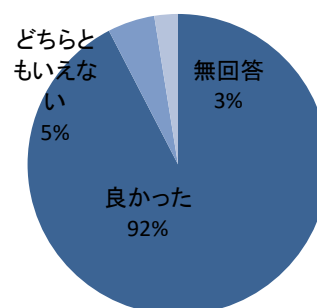
参加しやすい、自宅からでもアクセス可能。子育てや家庭の事情にも優しい。/実験をしながらなどでも忙しいスケジュールの中でも参加しやすいです。オンライン形式ではより多くの方にアウトリーチできるので大変良い形式と思います。/現在、子育て中のため、オンラインで非常に助かりました。ただ、託児等のサポートがなかったのが、子供について悩みましたが、無事に参加できました。/遠隔地の講師の方の貴重な講演を、時間やコストを節約して拝聴できる/自宅で視聴できるのがよい。コロナ禍が終わっても、ZOOMでの視聴を可能にしてほしい。/音が聞きづらかったり、開催する側としても大変なご苦労などもあるかと思いますが、参加する側としては、気軽に参加できます。また、COVID-19感染再拡大している時期でもあり、寒さなど外出も避けたいという点からオンライン開催は良かったと思います。/オンラインでの開催で、遠地からの参加が適ったので大変有難かった。また画面上でみたほうが参加者の名前の確認がしやすく、かつ発表スライドの文字も見やすいと感じた。近視乱視の人間には非常に助けられた。/オンライン開催の利点として、遠隔地からの参加が可能であることがあり、その点でハワイからの講演や、東京の澤柳記念賞授賞者の講演を聞いたことが有意義だった。また、参加者のハードルも下がる(例えば大学院生、学部生など)効果もあると思う。/オンラインでのメリット(移動の時間の節約など)がある反面、参加者間の出会いや交流が生まれず、参加体験が個人で閉じてしまうというデメリットもあると思う。/オンラインにはやはり良い面と不便な面があるため。良い面は、移動せずに気軽に参加できることですが、やはり発表者のパッションが伝わりにくい、臨場感を感じにくい点。まだ私がオンラインになじんでないせいかもしれません。

## Q8~14 内容について

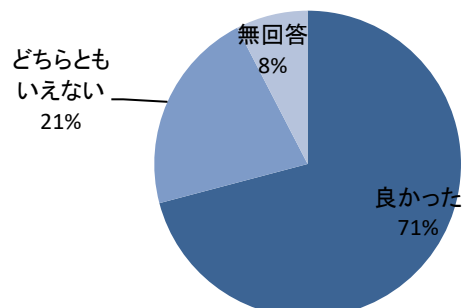
### 【男女共同参画の取組について】



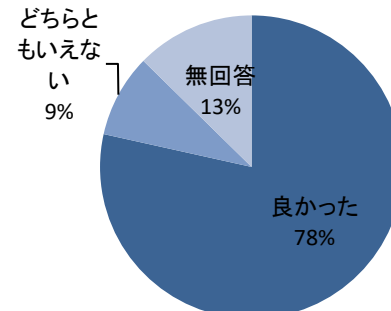
### 【特別講演(DILWORTH,Machi氏)】



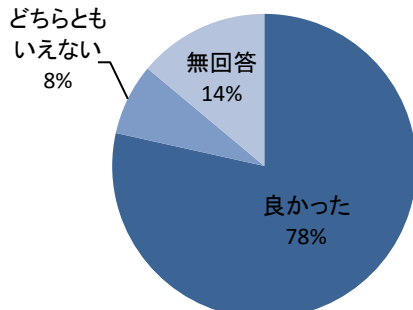
### 【パネルディスカッション(杉本氏)】



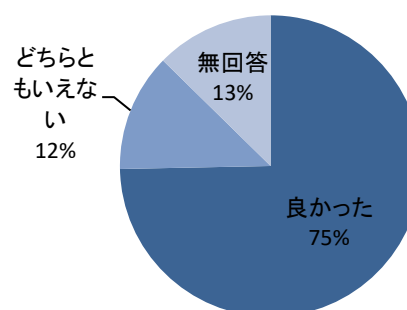
### 【パネルディスカッション(大西氏)】



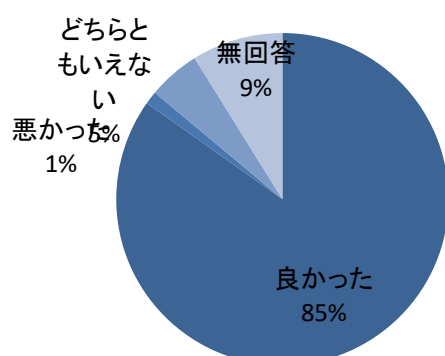
### 【パネルディスカッション(永野氏)】



### 【澤柳記念賞受賞講演】



### 【全体として】



#### Q15 東北大学における男女共同参画の取り組みについてご意見をお聞かせください。

- ◆ 多くのイベントを開催し、精力的に取り組まれていると思う
- ◆ さまざまなご苦労がある中で多大なるご尽力をいただいていることは理解できます。さらに構成員に対して可視化を進めていくには、小規模なセミナーなど部局でのオンラインあるいは対面での企画、そして相談窓口などもあるとよいのではないかと思います。
- ◆ 実に細かく密に支援が行き届いているのが素晴らしい。ただ、あくまでも個人の支援が目立つのは、DVDによる紹介のせいでしょうか？ 学部、部局ごとの取り組みも同じように公開してはいかがでしょうか？
- ◆ 具体的な数値目標を掲げていて、年々目標に近づいている点に安心を感じた。所属部署では女性教員はまだマイナーなので、心強い。
- ◆ 女性比率向上など、文科省 & 対外的情報発信・見せる化・KPIのためだけでなく、多様な視点や価値観を有する新たな人財と能力の活用による東北大学の発展を目指すって大隅先生のコメントに強く賛同します。
- ◆ 非常に有意義な取り組みを長年続けておられて、非常に勉強になった。パンフレットp.13にあった男女教員比などの数値を見ると、課題は大きいですが着実な改善がみられるので、継続的なデータ取得とレビューの機会があるというのは非常に重要だと感じた。
- ◆ 大野総長・大隅副学長のリーダーシップによりトップダウン的な戦略を推進されているのは素晴らしいことだと思います。一方で、今回のような企画に自発的に参加する男性教員はまだ少数派であり、すべての構成員に対して「男女共同参画は女性だけの問題ではなく、男性・女性がともに取り組んでいくべき課題である」という意識付けをしていくことが重要だと考えます。
- ◆ ディルワース先生の講演であったようにアメリカやグローバルな水準からすると、日本の女性研究者を取り巻く環境はまだ遅れており、アジア圏の国と対比しても女性研究者の比率が大きく少ないことが改めて実感した。この点からもより一層の取り組みが求められていると感じた。
- ◆ このアンケートの「1. あなたの性別をお教えてください。」という問いそのものが曲者という気が致します。これを問う必要があること自体が残念なことです。そのため、「どちらともいえない」と回答いたします。杉本先生のアンケートについての質疑応答にも関連する言及がありましたが、そもそも性別を伏せて、評価にせよ人事にせよ、粛々と執り行われるというのが志向すべき理想的状態であり、そこに向かう移行を過去の歴史の清算と両立させるのが、この類の問題の難しいところだろうと愚考致します。
- ◆ 少子・高齢社会が進んでいるなかで、如何にして、少子化の解消と教育の向上(心・体・智)をはかっていく施策を人間(男女協力して)が各々の立場・持ち場(学・官・産・国民)で連携・協力して取り組んでいく取り組みを今後も期待します。
- ◆ 大隅副学長が最後に仰ったとおり、ダイバーシティが言われている中で「男女」という用語の響きが限定的に聞こえる気がする。もう少し幅広くとらえる必要があるのではないかと。
- ◆ 大隅さんのSNSフォローから、おおよそはわかり助かっています。ただ、娘の話からは何をやっているかよくわからず、学生やその家族にも取り組んでいる方向性が何なのか、数多く発信してほしいですね。
- ◆ 現在まで実施されてきた文科省事業を着実に、そして継続して実施されており、これらの事業を通して築かれた支援策等をベースに、大学独自の女性研究者支援へさらに展開されている点が素晴らしいと思いました。

#### Q16 男女共同参画に関連したシンポジウムで、何かご希望の企画がありましたらお書きください。

- ◆ 男女の二分化ではなく、人種やセクシャルマイノリティ等を考慮した視点からジェンダーギャップやロールモデルについて話す企画に興味があります。
- ◆ 会社や企業の男女共同参画活動についても興味あります。
- ◆ 最近、クロスアポイントメント制度で雇用契約をされている先生方が増えて参りましたが、実際にどのような形で複数の組織の業務に従事し、そのメリット、デメリットはどうか？雇用する側(大学・企業)と雇用されている側の話を伺ってみたいです。
- ◆ サイエンスエンジェルの活動を毎年このシンポジウムで10分程度発表する時間を設けることでその活動の継続と発展を後押しします。
- ◆ 女性教員の割合が高い大学の取り組みに興味があります。
- ◆ 機会があれば、ダイバーシティ関連予算の取得方法やポストの準備にかかるノウハウなど、詳細に聞いてみたい。
- ◆ アフターコロナでもオンライン開催にしてもらいたい。途中、オンラインでカメラなしが質問しやすいとの話がありました。議論や対話するならば、カメラありだったり対面であったりの方が優れているのは当然と感じます。オンラインでは、知識浅い人でも質問しやすいシンポジウム・講義づくりが必要ではないかと思います。
- ◆ Dilworth先生に対して、アフーマティブアクションについてのお考えを質問致しましたが、残念ながら芳賀先生の接続が不安定となり、お答えを伺わないままとなり残念でした。アフーマティブアクションのプロとコンをきちんと踏まえることは、本学だけでなく全国的にも重要だと思います。本日のDilworth先生が紹介された事例も、なかなか工夫を凝らした緻密な制度設計となっており、一昔前の安易なアフーマティブアクションとは一線を画するように聞こえたので、委細をと思い質問を致しました。Global Gender Gap Indexで日本や米国よりもより優れた成績をおさめているような諸外国において、この問題がどのように扱われているのかを、組織的に学べる機会があれば有難いと思います。
- ◆ ライフイベントに合わせた研究活動のあり方
- ◆ 今回のシンポジウムでも話題にも登ったが、コロナ禍でより女性研究者(または子育て世代の研究者一般)が不利な立場におかれている状況が明らかになったので、いくつかのライフステージ別に分けて議論できるシンポジウムやワークショップが必要だと思う。

- ◆ アカデミックハラスメント・パワーハラスメント・セクシュアルハラスメントなどといった用語があると思いますが、女子学生もしくは女性研究者のアカデミックハラスメント・パワーハラスメント・セクシュアルハラスメント問題・対策に関する企画がありますと、大変勉強になるのではと思います。
- ◆ もっと視野を広げるために、このオンラインのツールを生かしつつ、更に地域を超える男女働きについて議論を深めるシンポジウムを企画できればと思います。また多くの男性も参加していた開ければと思います。
- ◆ 「働き方改革」とリンクさせた企画をお願いしたいと思います。問題の幾つかはここに収束すると思います。また、大学入学以前の取組や学部生への取組が重要に思いますので、そのあたりの情報が欲しいと感じています。
- ◆ 大学と学会の連携
- ◆ 包括的なダイバーシティ・インクルージョンの推進
- ◆ 今回のシンポジウムでも話に上がっていたが、在宅勤務による女性研究者の研究活動への影響に興味を持った。今後もこの状況はしばらく続くと考えられるので、ご議論や解決策のご提案を頂けると良いと思う。
- ◆ 子育てとキャリアの両立について、海外と日本の両方で子育て経験のある方のご意見を伺いたいです。(海外／日本の子育て支援の具体的な違いなど)
- ◆ 地域における男女共同参画推進について、例えば、自治会等は役員が男性が多い点(自主防災組織における防災担当も男性が多く災害時の避難所運営の在り方)、また市役所組織内の女性管理職登用が低い点、子育て、介護を女性が担う風土等もあり、地域における女性活躍に関するシンポジウム企画をお願いしたいです。
- ◆ 少子化の解消と教育の向上に向けた企画。

#### Q17 今回のシンポジウムについてご感想をお聞かせください。

- ◆ 海外のご講演者のお話も聞くことができ、オンラインのメリットを感じました。非常に貴重な時間となりました。ありがとうございます。
- ◆ 同時通訳の講演に初めて参加しました。途中、回線の影響があり途切れ途切れもありましたが、総じて、理解できたので良かったと
- ◆ コロナ下でのオンライン授業や研究者間の男女差など、色々参考になりました。
- ◆ 勉強会で継続して海外の事例を紹介いただいたことは東北ブロックの特色ある取組であり、感謝申し上げたい。
- ◆ 医学部のオンライン実習の様子が見れて、大変面白かったです。
- ◆ どの講演良かったのですが、やはり今一番大学の医療系教員として身近に苦労しているコロナ禍での教育、研修などについてお話しして下さった大西先生のご講演は参考になるとともに、刺激になりました。
- ◆ とても内容の濃いシンポジウムでした。
- ◆ ただ、皆さん、マスクなので、難聴の私には、男性の声は特に聴きづらく思いました。
- ◆ 今後の教育や指導に役に立った。次年度に活かしていけるとと思います。ご登壇(これも今後は死語になる?)された先生方、ご準備にあられた皆さま、大変お疲れさまでした。
- ◆ シンポジウムの目的に合致した、非常にわかりやすい発表ばかりでした。初参加でしたが、次回も参加したいです。
- ◆ それぞれのテーマ(パネルディスカッションのパネル報告を含む)は良かったが、全体としてややまとまりを欠いていたように思う。パネルディスカッションについては、現時点でのいろいろな切り口が提供されたという点は評価するが、方向性が見えにくかった(現時点で方向性を示すには、データ不足ないし時期尚早だと思うので、無い物ねだりかもしれない)。
- ◆ ご講演やパネルディスカッションの内容などはほぼ期待通りでしたが、開催方法について疑問を感じました。ポストコロナ時代を考えるシンポジウムにおいて、主催者側やパネリストが配信会場に集まり、マスクを着用して登壇する必要があったのでしょうか？登壇者のお顔も見えませんが、マスクを通しての発言は聞き取りづらいところもあり、マイクの衣擦れなのか、雑音が非常に気になりました。
- ◆ 大変すばらしい内容でした。
- ◆ 大変有益で新たな価値観と取り組み方を考えるよい機会になりました。ありがとうございました！
- ◆ コロナ禍のもとで、オンラインでのメリット・デメリットがそれぞれの立場で出されことは良かったと思います。在宅での仕事が女性にとっては負担があること。男女共同参画の課題が男性の課題としても浮き彫りになったと思います。
- ◆ オンラインでのシンポジウム、ご準備から運営まで大変なご苦労があったことと存じます。開催に携わられた皆様、ありがとうございました。講演者の皆様の貴重なお話を皆様とご一緒に拝聴できたこと、心より感謝申し上げます。
- ◆ とても良い企画で、取組みをぜひ宮城・東北・日本全体で発進して頂きたいですね。
- ◆ 我々多くの日本人が持つunconscious biasが、シンポジウム中に偶然にも表面に現れたのが大変興味深かった。Dilworth先生が指摘をされていたが、性別によって「らしさ」が決められたり役割分担されている地点から話をしているとはいけないのではないかと最近感じている。
- ◆ パネルディスカッションの中で、一部のパネリストから、性別による役割分担についてのステレオタイプが根強く残っていることが伺われる発言があったのは残念でした。
- ◆ グローバルな状況を知ることでもでき、また、宮浦先生を始めとした国内での積極的な取組みについても知ることができ、大変刺激を受けられた。コロナ時代の教育についても、大きな示唆を受けた。参加者を始め企画や進行をされた関係者の方々に御礼を申し上げる。
- ◆ 大西氏、永野氏の話が特に興味深かった。他部局の様子をきく貴重な機会だった。
- ◆ 内容も進行も大変良かったと思います。第1部と第2部の関連はやや低い気がしました(内容はそれぞれよかったです)。
- ◆ 今回はオンライン開催とのことでしたが、今回は現地参加もしくはオンライン参加と、選択肢があると良いと思いました。
- ◆ いろいろ参考になり、大変ありがとうございました。パネルディスカッションについて、途中で別の会議で一時的に抜けまして、残念でした。パネルディスカッションの時間をもう少し長くしてほしいです。(。)
- ◆ 16と関連しますが、大学入学以前の教育はほぼ均等であるのに対し、それ以降では不均等になっていることを改めて意識しました。何故そうなっているのか分析が必要と感じました。また、パネルディスカッション等で語られる(あるいは想定される)女性像、男性像がステレオタイプであり、逆説的ですが「男女共同」という言葉がそれを助長してしまう可能性を感じました。「多様性」という言葉の方がより適切なのかもしれません。
- ◆ 学ぶところの多いシンポジウムでした。ご担当された先生方に感謝します。

- ◆ シンポジウムを企画いただき、ありがとうございました。オンラインでいつもとは異なる準備となり、大変だったことと思います。話者が何回も通信不能になっていたため、安定な通信環境(有線LAN)を確認したほうがよかったと思います。また、一部の人で、音声あまり良くなかった(雑音が多かった)です。
- ◆ 大変充実していろいろな気づきがありました。ありがとうございました。
- ◆ いずれのご講演も心に残る内容があり、今後に活かすことができました、大変ありがとうございました。
- ◆ 私自身も実験・実習の授業は試行錯誤をしながら行っているため、大西先生のお話にあったオンラインでの実習への取り組みは興味深かった。また、私は新入生とは接点がないので永野さんのご意見やご提案は大変役に立つ内容だった。今後の活動に参考にさせて頂こうと思う。
- ◆ 大西先生の講演(特に実習動画)はもっと長く見たかった。
- ◆ 初めてこのようなシンポジウムに参加し、大変勉強にありました。特に学生の意見が聞けてよかったかと思えます。個人的にはより多くのパネリストを入れて多様な意見を募った方が趣旨に沿っていたように思います。学生の意見も学部の中から東北大にいる学生とこの4月に他大学から来た学生では感じ方も違うと思います。パネルディスカッションで労働時間を評価するという話があったかと思えますが、私は企業もアカデミアも経験していますが、多くの場合当てはまらないと思います。いろいろと整理した結果、やや特殊な議論になってしまった部分もあったように思いました。また、適宜指摘されていた部分もありますが、パネリストや司会の先生方がデータも無しに印象で男女差を話している場面が気になりました。
- ◆ コロナ禍での男女の投稿論文数の違いなど、女性にまつわるアンパイドワークの多さとそれによる仕事への影響を改めて感じました。前半もできれば同時通訳があるとありがたかったです。
- ◆ 私も大学院修士課程に所属し、働きながら院生として学んでおり、業務としても理解を深められ様々な発想をいただきました。また、女性の諸外国の大学研究者と日本の研究者の現状もうかがい、興味深いものがありました。ぜひ、今後とも東北大学と県等と連携を図っていただき、地域の男女共同参画推進について取り組み、何らかの研修企画等をお願いしたいと思います。行政に通知頂いた案内で、シンポジウムを知り参加させていただきました。ありがとうございました。
- ◆ 特に私はパネルディスカッションに興味深く聞かせていただきました。先生方各々の飾らないダイバーシティ、男女 という点からのお考えが大変勉強になりました。最後の大隅先生の女性教員登用率引き上げについて、「弱者救済」ではなく「女性の隠れた力を発揮するため」というお言葉に深く共感いたしました。本当に有意義なシンポジウムに参加させていただきありがとうございました。
- ◆ Dilworth, Machi先生の講演で、海外の取り組み等を知ることができてよかったです。私は40代半ばで学振特別研究員RPDの任期が今年度で終了しますが、現況ではポジションを得て自分が積み上げてきた研究を継続できる見込みが殆どなく(地方在住のため、コロナ禍で別居して職を得るという選択肢は考えていません)、今後のキャリアパスについて悩んでいます。シンポジウムの中で「任期付き職のアフターフォロー」の話が出てきた時は、こういったことは問題の認識のみならず、対応策に国全体で真剣に取り組むべきだと感じました。